様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ４ 月 ２５ 日現在

機関番号：３３９０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８１０２１

研究課題名（和文）デューイの反省的美的探究教育理論から見た実験室学校における教育実践の現代的意義

研究課題名（英文）A Study on John Dewey's Reflective and Esthetic Theory of Inquiry and the Educational Practice of the Laboratory School

研究代表者
早川　操（Hayakawa, Misao）

椙山女学園大学・教育学部・教授

研究者番号：５０１８３５６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、ジョン・デューイの反省的美的探究理論の特徴を解明することによって、その理論に基づいて実践されたシカゴ大学附属実験室学校での実践を分析し、そこから得られる提案に基づいて、現在の教育改革や学校改革に与えることができる教育的な示唆を検討することである。そのため、第一に、デューイの「反省的美的」探究理論の想像的・協働的・美的な特徴を考察することにより、実験室学校におけるカリキュラムや実践活動の分析を行なった。第二に、反省的探究のプロセスで展開される想像力、協働性、美的完結性によって育成される汎用性や転移可能性の特徴を分析して、現在進められている教育改革への示唆を検討した。

研究成果の概要（英文）：　The aim of this research project is to examine the significance of the curriculum and teaching developed by the Laboratory School of the University of Chicago with special reference to John Dewey’s theory of reflective and esthetic inquiry. Various findings acquired through this research will be utilized as the suggestions for the present educational reform in our country.
The research results are in the following. First, the discussion of the basic features of Dewey’s theory of reflective and esthetic inquiry was published in research articles of the Journal of John Dewey Society of Japan. Second, the analysis of the generic and transferable knowledge and skills and its relevance to the present school education reform was published in research reports of the Philosophy of Education Society of Japan.

研究分野：教育学

キーワード：ジョン・デューイ　反省的美的探究教育理論　実験室学校　実験的協働的知性　汎用性　転移可能な知識　深い民主主義

１．研究開始当初の背景

アメリカにおけるデューイの反省的思考や美的経験についての最近の研究成果はさまざまな著書として出版されているが、米国における研究成果を踏まえて、わが国でも反省的思考や美的経験の新たな解釈が追求されるべきであり、さらに教育改革や学校教育への示唆を提案すべきである。

また、デューイが指導したシカゴ大学附属「実験室学校」に関する研究については、近年にいたるまで日米両国の研究者が取組んできたが、実験室学校を支えた教育理念・カリキュラム・実践活動を解明することにより、現在のわが国の学校教育改革への示唆を得ることができる。

デューイの反省的思考についてのこれまでの研究成果については、問題解決学習との関連で研究されてきたものが多いが、現在の教育改革で提案されているアクティブ・ラーニング、主体的な学習、対話的な学習、深い学習との関連で、これまでの研究成果を再検討したうえで、新たな時代の研究課題を見いだす必要性がある。

２．研究の目的

本研究の目的は、アメリカの教育学者ジョン・デューイが 19 世紀末から 20 世紀初期に取り組んだシカゴ大学附属実験室学校での教育実践記録を分析することにより、彼が 20 世紀中頃にかけて構築した「反省的美的探究教育理論」の特徴を解明することである。そのさい、この教育理論の源泉が実験室学校での教育実践にあることを究明して、その展開過程と構造を検討することをめざす。

本研究は、デューイの「反省的美的探究教育パラダイム」を検討することにより、学校教育における想像力や共感的協働性の育成をめざす 21 世紀型「想像的協働的探究」教育理論の構築をめざす。

３．研究の方法

3 年間の研究期間をつうじて、20 世紀初期におけるシカゴ大学附属実験室学校での教育実践の考察に基づいて、デューイが 1930 年代になって展開した「反省的経験と美的経験」の理論的統合の解明に取り組むとともに、21 世紀の教育改革への示唆を追求した。この研究のために、以下のような研究方法を採用した。

第一に、デューイの「反省的美的探究教育理論」には、観察・推断・推論とともに感性的思考・質的思考・情熱的知性が組み込まれていることを理論的に究明する。

第二に、20 世紀初期に、デューイが校長として指導したシカゴ大学附属実験室学校、いわゆる「デューイ・スクール」での教育実践とはどのようなものであったのかについて、実践記録・書簡集などを実証的に分析する。

第三に、現在のわが国の教育改革で提案されている「汎用力・転移力」の教育を中心とした学習-教授パラダイムの特徴と課題を考察することによって、デューイが展開した「反省的美的探究教育パラダイム」との比較考察をする。

４．研究成果

3 年間の研究期間をつうじて、20 世紀初期におけるシカゴ大学附属実験室学校での教育実践の考察に基づいて、デューイが 1930 年代になって展開した「反省的経験と美的経験」の理論的統合の解明に取り組むとともに、21 世紀の教育改革への示唆を追求した。

その成果として、日本デューイ学会においてはデューイの反省的経験や美的経験に関する研究発表を行ない、論文が採択された。また、教育哲学会においては汎用力や転移可能な知識との関連で大学教育における学士力の役割などの研究発表を行ない、論文として掲載された。その他に、汎用力・転移力や 20 世紀アメリカ教育におけるデューイの探究理論の意義についての研究成果が著書の分担論文として掲載された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

(1)早川操「デューイの実験的探究と二一世紀の教育」『日本デューイ学会紀要』第 57 号、2017 年 10 月(掲載決定)。（査読有）

(2)早川操「深い学習による汎用力育成のためのカリキュラム開発の課題–次期学習指導要領に見る「主体的・対話的で深い学び」の意義–」『椙山女学園大学教育学部紀要』Vol.10，2017 年 3 月、131-147 頁。

(3)Misao Hayakawa, “The Education of Transferable Skills at Japanese Universities,” *English E-Journal of the Philosophy of Education*, Vol.1, 2016, pp.33-40. http://pesj.sakura.ne.jp/english/englishjournal.html

(4)早川操「大学教育における汎用的知識技能の育成とその課題」『教育哲学研究』第 113 号、2016 年 5 月、37-43 頁。

(5)早川操「デューイの『思考の方法』に見る実験主義的想像力の展開」『日本デューイ学会紀要』第 55 号、2015 年 10 月、41-50 頁。（査読有）

(6)早川操「デューイが描いた人間の課題と教育―デューイ研究の歩みを振り返る―」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第 61 巻第 2 号 2015 年 3 月、1-24 頁。

(7)早川操「教育実践と教育哲学―これまでの教育哲学、これからの教育学―」『教育哲学研究』109 号、2014 年 5 月、49–54 頁。（田中智志と共著、担当部分 49–52 頁）

(8)早川操「『深い学習』とは―大学教育は『転移可能性』を教えられるのか」『教育哲学研究』109 号、2014 年 5 月、93–98 頁。

(9)早川操「デューイの美的経験論における実験主義的特徴―「一つの経験」と「質的思考」の意義再考―」『日本デューイ学会紀要』第 55 号、2014 年 10 月、64- 73 頁。（査読有）

〔学会発表〕（計 3 件）

(1)早川操「デューイの実験的探究と 21 世紀の教育」日本デューイ学会第 60 回研究大会シンポジウム「デューイ研究の現在・過去・未来 –学会 60 周年を記念して–」岐阜大学（岐阜県・岐阜市）、2016 年 9 月 18 日。

(2)早川操「汎用的技能の育成とわが国の大学教育の行方―「学士力」育成の背後にある教育観とその課題―」教育哲学会第 58 回大会「課題研究　教育哲学の「現場」としての高等教育」奈良女子大学(奈良県・奈良市)、2015 年 10 月 11 日。

(3)早川操「デューイの『思考の方法』に見る実験主義的想像力の展開」日本デューイ学会第 56 回大会、同志社大学（京都府・京都市）、2014 年 10 月 3 日。

〔図書〕（計 2 件）

(1)早川操「20 世紀教育理論の変遷と課題–理想的実践主義から見た教育理論」加賀裕郎・高頭直樹・新茂之編『プラグマティズムを学ぶ人のために』世界思想社、2017 年 4 月、197-211 頁。

(2)早川操「流動化する社会と教育―転移力・汎用力を身につける―」10-23 頁、早川操・伊藤彰浩（編著）『教育と学びの原理　変動する社会と向き合うために』名古屋大学出版会、2015 年 7 月、10-23 頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
早川　操（Hayakawa, Misao）
椙山女学園大学・教育学部・教授
研究者番号：50183562